

令和7年度 学校関係者評価書（川南町立山本小学校）

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		結果の考察・分析および改善策等	関係者評価		学校関係者評価委員の意見
		項目	総合		項目	総合	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進							
1	家庭教育の充実に努める。 ・家庭教育の支援 ・個人面談等を生かした子育て不安等の解消	3.7	4	○家庭教育の支援として、かけ算九九の習得や読み声、タブレットの活用等を行った。 ○積極的に家庭に連絡をし、連携を取れるよう努めている。また申し込みがあった場合、SC/SSWとの面談を設定している。 ●スクールカウンセラーからの情報を共有する時間が必要	3.0	3.0	○今後も過学習においては紙ベースとタブレットの両方の効果的な活用をお願いしたい。 ○家庭での時間の過ごし方やルール作りなどが重要であることから、家庭教育学級の充実やSC/SSWとの継続した連携を今後も図っていただきたい。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ・地域の人的、物的資源の積極的な活用 ・家庭と連携した健康教育、食育の充実 ・学校運営協議会委員を生かしたPTA活動の活性化	3.7	4	○保健室だより等を積極的に発信し、家庭と連携した健康教育・食育の充実を図った。 ○登下校時の見守り活動や地域の方との調理実習、米作り体験、保護者によるキャリア教育の講話の実施を行った。新たに、三味線の鑑賞教室などにも取り組んでいる。 ●学校側のニーズだけではなく、地域の方が子どもたちに伝えたいという思いも受けていく必要がある。	3.8	3.4	○学校と地域の連携が取れていてとてもよかった。現在、自治公民館と共同で子どもミニ夏祭りや子ども食堂を開催している。これからは、学校側からも低中高学年単位や全体でも構わないので、地域と一体となって取り組むたい内容を遠慮なく提案していただきたい。 ○学校運営協議会において、今年度も学校経営ビジョンや児童の実態に基づいて目指す児童像を明確化し、共有することができた。このことにより、キャリア教育がさらに充実したものになった。
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進							
1	読書活動を推進する。 ・学校図書館活用の充実 ・町立図書館との連携 ・読み聞かせ、ファミリー読書の推進 ・各種作文応募、新聞等への投稿促進	3.7	3.4	○学校図書司書と連携し、読み聞かせ会やスタンブラリー、ファミリー読書週間等読書活動を推進した。また、朝読の時間を活用した図書委員による低、中学年への読み聞かせ活動も行っている。 ○積極的な新聞投稿を行ったことで、多くの児童が掲載され意欲につながっている。	4.0	4.0	○山本小の読書に関する取組は素晴らしいものである。関連して読み聞かせグループの活動も忘れてはならない。反省や改善を織り込みながら、継続していただきたい。 ○宮日新聞や子ども新聞への掲載により、保護者や地域も注目しており、子どもたちの作文への意欲につながっている。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ・「分かった、できた」と児童が自信をもって言える授業改善及び家庭学習の充実 ・望ましい学習習慣と読解力の育成（主題研） ・情報モラルを身に付け、ICTを活用できる児童の育成	3.3	3.4	○L-Gateやデジタル教科書の活用をしたり習熟の時間にタブレット内にある問題を解かせたりすることにも取り組み、より「わかった、できた」と児童が実感できる授業改善を行った。 ●児童や教師がもっとICTにふれる環境づくりを行っていく必要がある。	3.5	3.5	○確かな学力を育むには、基礎が理解されているかが大切である。まずは、基礎基本をしっかり身に付けることができるよう取り組んでいく必要がある。 ○少人数での指導が行き届く山本小ならではの授業実践を行っていただきたい。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ・「山本小あたり前のこと3か条」の指導及び教育活動全般を通じて、自己肯定感の育成 ・いじめの未然防止及び自他の生命を大切にす道徳教育及び人権教育の推進	3.1	3.4	○全校集会等で、言葉遣いの大切さについて一斉指導し、さらに各学級でも共通した指導を行った。また、道徳の価値を生活につなげて指導したり、学級通信等で家庭に伝えたりしている。 ●あたり前3か条を実施に合わせて見直し、参観日等で道徳の参観授業を実施したりするなど学校全体で共通した、称賛を取り入れた指導が必要である。	3.4	3.4	○「山本小あたり前のこと3か条」の中の「はきものを並べる」ことは、実際いつ見ても並べてあり、大変素晴らしいことである。 ○人に対する思いやり精神、いじめの徹底排除、人間にしか分からない「こころ」という温かいものを大切にしてい、何か機会ある毎に「優しく嬉しかったこと発表会」などを開催してみてもどうか。
4	特別支援教育を推進する。 ・校内組織の充実及び関係機関との連携 ・個別の教育支援計画、指導計画の共有及びその活用 ・通級指導教室（川南小）との連携	3.2	3.4	○個別の支援・指導計画の計画的な作成や関係機関や通級指導教室との連携を図っていくことができた。 ○特別支援学級や通級についての具体的な話を全校集会で児童向けに行い、理解啓発に努めた。 ●関係機関との連携を通した情報の共有を行うことで、共通した指導を行うことにつながる。情報共有の時間・場の確保をし、継続的で予防的な体制づくりが必要である。	3.3	3.5	○一人ひとり置かれた環境や状況が違い、個々に合った教育が求められるのが難しい面も多いが、本人にとってはすべてであると考え、個々のためにも優先度をつけて取り組ませ、一歩ずつ前進させていくことが重要ではないかと考える。 ○今後も、特別支援教育に関する研修や関係機関との連携を図ること、更なる推進に努めてほしい。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ・「みどりの少年団」の活動の充実 ・「Team Kawaminami学びのネットワークづくり事業（地域学校協働本部事業）」の活用	3.5	3.4	○ボランティア活動が自主的に行われており、総合での米作りや外掃除時間を活用した花いっぱい活動の取組でも積極的に児童が増えている。また、ミニ学習や福祉体験等地域の方々に来ていただき学習を進めることができた。 ●朝ボラの参加状況に差があるため、賞賛や声かけ、指導が必要である。さらに、「総合的な学習の時間年間指導計画」の縦の系統を含めた見直しが必要である。	3.5	3.5	○今年度は雨天のため、トロンロン夜ではなく「山本地区盆踊り大会」で「緑の募金活動」を行う姿があった。地域の中で活動する姿が見られた。 ○みどりの少年団活動は山本小だけと聞く。形骸化しない町全体としての考え方や方向性を明確にするべきではないかと考える。 ○地域学校協働推進員と連携しながら地域人材を活用し、プロの技や伝統文化にふれる活動等を積極的に取り入れてほしい。
6	キャリア教育を推進する。 ・幼保小中との連携、及びキャリアパスポートの活用の推進 ・学年の発達段階を考慮したキャリア教育の見直しと計画的な実施	3.4	3.4	○地域の方を招いての授業、保護者によるキャリア教育授業等は充実していた。 ●キャリアパスポートを用いた自己のめあての設定とふり返り活動の連携や総合的な学習の時間に組み込むなど年間を通した計画の見直しを図っていく。	4.0	4.0	○キャリア教育は、本年度一番の成果だと実感している。毎年継続してほしい。 ○将来の自分の職業を自分で見つけ、自分らしい生き方を身に付けてもらうための「切り口」をどうしたら提供できるか。特別なことではなく、私たちの周辺にも素晴らしい人がたくさんいる。機会提供にもう少し力を入れることも必要ではないかと考える。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ・ICTを活用した授業づくりの推進 ・ALT活用による国際理解教育の推進	3.4	3.4	○主題研において職員へのタブレット活用研修を実施し、研究授業においてもタブレットを活用する方法を提案することができた。 ●ICTに関しては、さらに児童がふれやすい環境づくりが必要である。	3.1	3.1	○研究授業や日常の授業の中で、ICT機器を有効活用する機会が増えているように感じる。今後も校内研修などを通して、どの学級でも同じようにICTを取り入れていけるようにしてほしい。 ○厳しい時代でもあるが、方向転換、判断能力などは学校だけでは学べない。教育関係者・保護者との話し合いも視野に入れ検討していく必要がある。
III 教育を支える体制や環境の整備・充実							
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ・「チーム山本小」としての組織的取組の推進 ・新しい研修制度を生かした教職員の資質向上の推進 ・業務の精選及びコンプライアンスの徹底	3.7	4	○児童が「分かった、できた」と実感できる日々の授業づくりにつながる取り組みやすい研修が実践できた。 ○業務の精選を図るために、連携を取りながら臨機応変に変更していくことができてきた。 ●共通した指導ができるよう、連携していくこと、また情報を共有する場と時間の確保が必要である。さらに、チームとして、学校がよくなるために、互いに意思疎通を図り、それぞれができる改善を行っていく必要がある。	3.4	3.4	○学校と保護者の連携があるから、子供たちの成長と努力を感じることができた。 ○昔に比べると、少子高齢化、人口減少など教育環境は大きく変化している。そうした環境変化に対して教師の処遇改善も遅れている。働きやすく、実態と密着した愛情ある授業ができるような改革が求められる。個々の努力と双方で取り組む必要がある。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ・「自分の命は自分で守る」安全教育・防災教育の充実 ・安全点検の効果的な実施 ・基本的な感染症対策の継続	3.5	4	○早寝、早起き、朝ご飯の励行の奨励や熱中症予防の放送での呼びかけ、塩分タブレットの配付等安全、安心な教育環境の整備充実に努めることができた。 ●安全点検では、修繕場所や改善の共有ができるように写真等を活用し、共有していく必要がある。	3.3	3.3	○安心・安全は、お互いに協力しながら達成できるものであると考える。大地震、風水害などの自然災害は、地域全体に被害をもたらすことから、家庭内備蓄、災害訓練、避難行動など地域とも連携した取組も必要になってくる。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進							
1	学校体育の推進に努める。 ・学校体育の充実による体力向上 ・地域スポーツ団体との連携や国民文化祭への作品応募や参加の推進	2.8	4	○朝や業間を活用した運動の時間の確保ができた。 ●運動の提案はあったが、全クラスでの取組には差が見られたので、学校全体で行えるような体力づくりを推進していく必要がある。	3.0	3.0	○学校スポーツの集大成は運動会である。日頃から鍛えた運動能力を地域住民の前で披露し参加者が一つになる。地域文化面では、各地区で盆踊りや神社お祭りなどがあるが、残念ながら先人が今まで繋いできたものが無くなりつつある。残していくために必要なことを議論して欲しい。